

成果発信 2010 年以降

以下に研究成果の外部への発信状況をまとめた。かっこ内は 複数のメンバーの共著研究および学部間メンバーの共著研究である。

論文	1 0 8 (1 5, 4)
特許出願等	6 (4, 1)
招待講演等	4 5
学会発表	3 2 7 (5 1, 1 0)
著書	1 1
受賞	8 件
外部資金	3 3 件 (1 3, 2)

特筆されるのは、高野良紀の日本希土類学会賞（塩川賞）受賞、および井上修一郎の量子情報分野での進展（Nature Photonics, 日刊工業新聞）とそれに基づく外部資金獲得（SCOPE）である。また、塚本新、伊藤彰義らの超高速記録に関する研究が Nature に掲載されることが決定した。

活動記録 2010 年 3 月以降

- 3 月 15 日（月） 日本大学広報掲載 “ナノ科学最先端と若手のフォーラム”
- 4 月 20 日（火） 日本大学新聞掲載 “未来創造 N.プロジェクト-1-ナノテクに独自の取り組み”
- 5 月 10 日（月） 全体会議, 理工学部駿河台 2 号館
- 5 月 20 日（木） 日本大学新聞掲載 “未来創造 N.プロジェクト-2-‘光で書く’技術を模索”
- 5 月 21 日（金） N.研究プロジェクトセミナー, 理工学部駿河台 2 号館 245 会議室
灰野岳晴 (広島大学大学院理学研究科) “超分子化学による分子配列空間の制御”
- 6 月 1 日（火） N.研究プロジェクトセミナー, 理工学部駿河台 2 号館 245 会議室
Shane Telfer (Institute of Fundamental Sciences, Massey University, New Zealand)
“Dipyrrin Complexes: Synthesis, Structure & Spectroscopy”
- 6 月 1 日（火） 日本大学広報掲載 “ナノ科学最先端と若手のフォーラム”
- 6 月 20 日（日） 日本大学新聞掲載 “未来創造 N.プロジェクト-3-情報技術の最終形態”
- 7 月 8 日（木） 日刊工業新聞掲載 “光通信に量子計算”
- 7 月 20 日（火） 日本大学新聞掲載 “未来創造 N.プロジェクト-4-X 線・薬物でがんに挑む”
- 8 月 20 日（金） 日本大学新聞掲載 “未来創造 N.プロジェクト-5-つかめ太陽エネルギー”
- 9 月 18 日（土） 第 2 回日本大学 N.研究プロジェクトシンポジウム「羽ばたけ、日本大学 N.の若手研究者」The Second Symposium of Nanotechnology Excellence, Nihon University 2010 — Nanomaterial-based Photonic, Quantum and Bio Technologies—, 理工学部船橋 14 号館 1445 会議室, 概要: 参加 100 名強. 若手研究者を中心に講演 8 件, 招待講演として Pascal Naidon (東京大学) および行方直人 (量子科学研究所). ポスター発表 39 件, 評価委員の講評を齋藤烈教授 (日本大学工学部) にいただいた. 予稿集を発行した.
- 10 月 15 日（金） 日本大学広報掲載 “ナノ技術の極限を追求, 第 2 回シンポ N.プロジェクト”
- 10 月 27 日（水） 第 2 回学術研究戦略会議拡大委員会, 本部 701 会議室
- 10 月 NUBIC NEWS 2010 October 掲載 “研究室紹介理工学部 学部連携研究によりナノ物質を基盤とする新しい研究領域を開く”
- 11 月 11 日（木） Mini Symposium on Supramolecules, 理工学部駿河台 2 号館 245 会議室